



# 令和7年 飛騨市 二十歳のつどい



谷口竜也さん

## 谷口竜也さん「誰よりも楽しい人生を」

私の夢は「自分の会社を持つこと」と「飛騨を若者であふれ、活気ある街にすること」です。私は自然豊かで皆あたたかい飛騨が大好きなので、さまざまな問題を抱える飛騨の将来を真剣に考え、自分なりのやり方で活気と笑顔のあふれるまちづくりに貢献したいです。

私はこの夢を往生際悪く、大人げなく信じ続けたいと思います。

夢の実現には緻密に計画を立て、コツコツと準備をすることも大切です。しかし、変化の激しい現代においては、不完全な状態のままでも失敗を恐れずとりあえずやってみるという前向きな姿勢を持たなければなりません。私はこれからたくさんの挑戦と試行錯誤を繰り返し、誰よりも楽しい人生を送りたいです。

「令和7年飛騨市二十歳のつどい」が市内の各会場で開催されました。今回は217人(古川会場160人、神岡会場57人)が対象となりました。未来を担う飛騨市の青年らが「大きな同窓会」のように一堂に会し、これまでを振り返ったり、現在や未来について語り合ってもらおうと開催しているもの。当日は、振袖や羽織袴、スーツなどに身を包んだ若者が出席し、久しぶりに会う同級生や恩師と談笑したり近況を報告しました。

中学生時代の恩師らも登壇し、学校生活を振り返りながら20歳の皆さんにメッセージを贈りました。古川町の飛騨ダイカストで働いているベトナム出身のダオ・ティ・クインさんとグエン・ティン・フエンさんも、渡邊正憲社長に付き添われて振袖姿で式典に出席。「着物を着るのは初めて」「嬉しいです」などと話していました。



鍛冶夏来さん

### 鍛冶夏来さん「自分を好きであり続けたい」

現在、私は大学で教育学を学んでおり、いつか子どもたちの可能性を引き出せる先生になりたいと思っています。中学時代、部活動や進路で迷っていた私に親身に寄り添って応援してくださったことが、今でも心に残っています。そうした経験を通じて、「自分も先生方のような生徒に寄り添い、人間性のある先生になりたい」と思い、教育の道を選ぶ決意をしました。私にとって特に大切にしたいのは、地元への恩返しです。この地域で育ててもらったからこそ、いつか自分なりの形で感謝を返していきたいと思っています。

そして、これからの人生で大切にしたいのは、「自分を好きであり続けたい」ということです。失敗や挫折があっても自分を否定せず、自分らしさを認めながら進むことで、より豊かな人生を築きたいです。